

昭和十年三月

卯之町

縱行一九
橫行三三
圖幅第二四九號

地質說明書

地質調查所

卯之町 縱行一九橫行三三
圖幅第二四九號 地質說明書

目次

第一章 地質

自一頁至三七頁

- | | |
|-------------|-----|
| 一、前石炭系—御荷鉾統 | 一頁 |
| 二、久米統 | 二頁 |
| 三、上部古生界—秩父系 | 四頁 |
| 四、虚空藏山層 | 九頁 |
| 五、三疊系 | 一〇頁 |
| 六、珠羅系 | 一四頁 |
| (一) 安藝川統 | 一四頁 |

(イ)	下部層	一四頁
(ロ)	上部層	一六頁
(二)	四萬十統	一七頁
七、	鳥ノ巢領石統	一九頁
八、	上部白堊系	二八頁
九、	更新統	三一頁
十、	現世統	三一頁
十一、	花崗斑岩	三一頁
十二、	石英斑岩	三二頁
十三、	斑糲岩	三三頁
十四、	蛇紋岩	三四頁
十五、	輝綠岩	三四頁
十六、	石英粗面岩	三六頁

第二章 應用地質

自三七頁至四一頁

一、	銅 鑛	三七頁
二、	格魯謨鐵鑛	三八頁
三、	水銀鑛	三九頁
四、	滿俺鑛	三九頁
五、	甌 土	四〇頁
六、	石灰岩	四〇頁
七、	石 材	四一頁
八、	鑛 泉	四一頁

卯之町

縱行一九橫行三三
圖幅第二四九號

地質說明書

(昭和九年稿)

商工技師 鈴木 達夫

第一章 地 質

一、前石炭系——御荷鉾統

本圖幅北西隅ノ小地域ニ露出セル本統ハ北隣久万圖幅地内ニ於テ廣大ナル地積ヲ占ムル御荷鉾統ノ連續ナリ本圖幅地内ニ於テハ久万圖幅地内ニ於ケルヨリモ綠簾綠泥片岩厚ク發達シ之ニ石墨片岩ヲ伴フ

綠簾綠泥片岩 綠色或ハ濃綠色ヲ呈シ厚サ三柵内外ノ薄板ニ剝離ス之カ薄片ヲ顯微鏡下ニテ檢スルニ粒狀又ハ柱狀ノ綠簾石及綠泥石ヲ主トシ石英粒ヲ交ヘ鱗狀變晶質構造ヲ示ス石墨片岩 黑色ヲ呈シ板狀ニ剝離シ主ニ石墨及石英ヨリ成リ細鱗片狀ノ絹雲母粒狀ノ綠

泥石八面體ノ磁鐵鏽及片狀赤鐵鏽ノ小結晶ヲ雜ヘ、鱗狀變晶質構造ヲ示ス

構造 本統ハ走向北七十度東傾斜北方ニ五十度乃至八十度ナル單斜層ヲ成ス、而シテ其南邊ハ久米村下里ヨリ平野村矢口ニ互リ北東ヨリ南西ニ走レル斷層ヲ以テ南方ノ久米統ニ接セリ

一、久米統

本統ハ愛媛縣喜多郡南久米村附近ヲ中心トシテ發達セルヲ以テ假ニ久米統ト稱セリ主トシテ千枚岩ヨリ成リ石灰岩砂岩硅岩輝綠凝灰岩ヲ伴ヘリ

千枚岩 綠色或ハ灰色ヲ呈シ綠色千枚岩ハ綠泥石質物及細粒狀ノ粘土質物ヨリ成リ灰色千枚岩ハ長石石英ノ細粒ヲ粘土質物ニテ膠結セルモノナリ、共ニ緻密堅硬ニシテ厚サ一極内外ノ板狀ニ割ケ易シ、是等兩種ノ岩石ハ互層ヲ成シ各層ノ厚サハ普通十米乃至二十米ナルモ厚キモノハ百米ニ達ス

砂岩 灰色ヲ呈シ細粒質ニシテ石英及長石ヨリ成リ働力變質ニヨリ板狀ニ剝離スル性アリ、厚サ五米乃至十米ナリ

硅岩 白色或ハ灰色ヲ呈シ緻密ニシテ成層理ヲ示サス塊狀ノモノ多シ、主トシテ石英ノ粒

狀結晶ヨリ成リ稀ニ長石ヲ交フ、一層ノ厚サ五米乃至十米ナリ

石灰岩 白色ヲ呈シ粒狀結晶質ニシテ縞狀ノ薄キ綠色粘板岩ヲ挟ミ、厚サハ一米乃至五米ナリ

輝綠凝灰岩 紅色或ハ綠色ヲ呈シ一般ニ紅色ノモノ多クシテ綠色ノモノニ遷移セリ、主トシテ塊狀ニシテ片理ナキモ時ニ板狀ノ剝理ヲ示ス、細粒或ハ微晶ノ赤鐵鏽粒狀或ハ片狀ノ綠泥石柱狀或ハ粒狀ノ綠泥石ヲ含ミ、之等ハ凝灰質物ニヨリテ膠結セラル、殊ニ紅色ノモノニハ赤鐵鏽多シ、屢々石灰岩ヲ伴フ、厚サ普通五米内外ナリ

構造 本統ハ前記セルカ如ク北方ノ御荷鉢統トハ斷層ヲ以テ接シ、南方ノ秩父系トハ亦大成村森山南久米村梅川田之筋村島坂ヲ通スル走向東北東—西南西ノ斷層ニヨリテ界セルノミナラス、分布地域内ニモ二三ノ主要走向斷層アリテ其中菅田村野地、南久米村黒木、平野村梶谷ヲ通シ北東ヨリ南西ニ走ルモノ及菅田村大竹、南久米村山中及北浦ヲ通シ北東ヨリ南西ニ走ルモノニヨリ久米統ノ地域ハ北部中部及南部ノ三區域ニ分タル

北部區域ノ久米統ハ主トシテ綠泥質千枚岩ヨリ成リ灰色千枚岩及硅岩ヲ挟有シ、走向東西乃至東北東傾斜北方ニ六十度内外ニシテ單斜層ヲ成セリ

中部區域ノモノハ主トシテ灰色及綠色千枚岩ヨリ成リ砂岩及硅岩ヲ伴ヘリ、岩層ハ東北東

ニ走リ北々西ニ急斜スルヲ一般トスルモ平野村掘谷ニ於テ走向北六十度東傾斜南東方ニ四十度菅田村追打ニ於テ走向北七十度西傾斜南西方六十度内外ナリ南西部菅田村大竹南久米村札掛北浦附近ニ於テ各走向北三十度東傾斜南東方四十度走向北二十度西傾斜南西方ニ六十度走向東西傾斜南方六十度ナル等走向及傾斜ノ混亂セル處ハ斷層ノ通過スル附近ニシテ構造線ノ存在ヲ示ス所ナリ南部區域ノモノハ灰色千枚岩層中ニ結晶質石灰岩輝綠凝灰岩及硅岩ヲ伴フモノヨリ成リ走向ハ約東西ニシテ北方ニ二十五度乃至六十度傾斜セリ

時代 本統ハ前記セルカ如ク三區域ニ分カレ各區域ハ斷層ヲ以テ相接スルカ故ニ相互ノ關係不明ナルモ岩石變質ノ程度ハ北部ノモノ最モ甚シ南部區域ニハ石灰岩アリ其中ヨリハ未タ化石ヲ發見セス隨テ時代全ク不明ナルモ組成岩石ハ南方ニ接シテ存スル上部古生代ノ秩父系ノ岩石ヨリ變質著シク之ヨリ古期ノモノタルヘク寧ロ北方ノ御荷鉢統ト共ニ前石炭系ニ屬スルモノナラン

三、上部古生界——秩父系

本系ハ圓幅地ノ北半部ヲ占メ廣ク發達セリ粘板岩砂岩角岩石灰岩及輝綠凝灰岩ノ累層ヨリ成リ斑瀾岩蛇紋岩輝綠岩ニヨリテ貫通セラル輝綠凝灰岩ハ東部即チ高知縣橋原村愛媛縣

豊川村ニ於テ著シク發達シ角岩ハ諸地ニ現出セルモ殊ニ宇和町中川村田ノ筋村中筋村地内、橋原村烏帽子岳ノ連山日吉村ノ御在所山ヨリ下宇和村ノ齒長峠ニ互ル連山ニ多シ石灰岩ハ大野ヶ原及之ニ續キテ土佐伊豫ノ國境ニ著シク厚層ヲナシテ發達シ又齒長峠ノ連山ニ於テ東西ニ互リ賦存セリ

粘板岩 灰色暗灰色、黑色或ハ綠色ヲ呈シ、黑色ノモノハ最モ稀ニシテ普通灰色或ハ暗灰色ナリ緻密堅硬ニシテ板狀ニ剝離ス、時ニ長石及石英粒ヲ含ミ砂質ノモノアリ、綠色ノモノハ稍硅質ニシテ綠泥質物ヲ含有シ、黑色ノモノハ炭質物ヲ含ム、本岩ハ普通一層五米乃至十米毎ニ砂岩角岩等ト互層スルモ時ニ一層ノ厚サ百米ニ達スルコトアリ

砂岩 本岩ハ一層ノ厚サ一米乃至二十米毎ニ粘板岩角岩等ト互層ヲナス、灰色或ハ暗灰色ヲ呈シ、細粒ニシテ成層理ナキ塊狀ヲ成シ、時ニ板狀ニ剝離ス、一般ニ細粒ノ石英長石雲母磁鐵礦及有色礦物ヨリ成ル

角岩 白色灰色或ハ紅色ヲ呈ス、緻密無層理塊狀ナルモ時ニ淡色ノモノト濃色ノモノト厚サ三輦内外毎ニ交互シテ縞狀ヲ成シ、時ニ小褶曲ヲ示セルモノアリ、白色ノモノハ主トシテ細粒ノ石英ヨリ成リ、硅質物ニテ膠結セラル、灰色ノモノハ細粒或ハ微粒ノ石英ヨリ成リ、暗灰色ノ微粒硅質物ニヨリテ膠結セラル、又紅色ノモノハ同シク硅質ナルモ細粒ノ赤鐵礦及粘土質

物ヲ含ミ、之ニ放散蟲ノ形骸ヲ混フルコトアリ、粘板岩、砂岩ト互層シテ普通一層ノ厚サ一米乃至五米ナルモ時ニ二十米ニ達スルコトアリ

輝綠凝灰岩 綠色或ハ紅色ヲ呈ス、普通塊狀ニシテ成層理ヲ示サ、ルモ稀ニ層理面ニ沿ヒテ板狀ニ剝離ス、本岩ハ綠泥石、蛇紋石、綠簾石及綠色潛晶質物ヨリ成リ、紅色ノモノニハ赤鐵鏡ノ細粒結晶ヲ含ミ、普通一層ノ厚サ一米乃至二十米ニシテ粘板岩、砂岩、角岩ノ累層中ニ介在スルモ厚キモノハ百米以上ニ達ス

石灰岩 白色或ハ灰色ヲ呈ス、主トシテ細粒狀ノ方解石ノ集合ヨリ成リ、層理ナク塊狀ナリ、時ニ潛晶質石灰質物ヲ交ヘ、又彌狀ヲ呈スルコトアリ、普通ハ粘板岩中或ハ輝綠凝灰岩中ニ介在シ、扁桃狀ヲ成シ、厚サ一米乃至五米、延長百米内外ナルモ、大野ヶ原ニ於ケルモノハ厚サ二十米乃至五十米、延長數軒ニ達ス、本岩中ニハ屢々紡錘蟲、石蓮、蘇蟲類ノ化石ヲ含ム

構造 本系中ニハ多數ノ斷層アリ、其主ナルモノハ橋原村、越知面ヨリ野村町木落^{コノ}ニ互レル、越知面斷層、橋原村高野ヨリ土居村中津川ニ互レル、高野斷層、及日吉村相林ヨリ法華津峠ニ互レル、法華津斷層是レナリ

越知面斷層ハ東北東ヨリ西南西ニ走り、東方ハ遠ク須崎、伊野及高知圓幅地マテ連レルモノニシテ、四國ノ南部ヲ約東西ニ互リ、中生層ト上部古生層間ニ現出セル一大構造線ナリ、本斷層

ハ衝上斷層ノ疑ヒアルモ、其傾斜角度急ニシテ直立セル處多シ

高野斷層ハ東隣ノ須崎及高知圓幅地ニ連續シ、其北側ノ秩父系ト南側ノ安藝川統或ハ島ノ嶺領石統トノ境界ニ在リ、斷層線ヲ連ルニ北方傾斜ノ斷層ニシテ、之カ爲メ秩父系ハ安藝川統上ニ衝上セルカ如キ觀アリ

法華津斷層ハ其北側ノ秩父系ト南側ノ安藝川統トノ境ヲ成ス、屢々斷層ニ沿ヒ壓碎角礫岩ト推定セラル、盤岩層アリ、是レ亦高野斷層ト同シク一衝上斷層ナランカ

本系ハ一般ニ北方ニ傾斜セル單斜層ヲ成セルモ處ニヨリテ走向ノ擾亂セル所或ハ彎曲セル所アルノミナラス、亦多數ノ斷層ニヨリテ截斷セラル、是等ノ斷層ニハ略東西ニ走レル走向斷層及略南北ニ近ク走レル斜斷層アリ、概ネ正斷層或ハ逆斷層ニ屬ス

次ニ各地ノ一般走向傾斜ニツキ概説スレハ、東部ニ於テハ走向約東西傾斜、北方ニ四十度乃至八十度、西部中筋村、溪筋村ニ於テハ走向北四十度乃至七十度、西傾斜、北方ニ三十度乃至七十度ナリ、田ノ筋村、中川村ニ於テハ走向東西傾斜、北方ニ四十度乃至八十度、又橋原村、高野附近ニ於テハ走向東西ヨリ北五十度ニ彎曲シ、北東ニ向ヒテ傾斜セリ、齒長峠、御在所山ノ連山ニ於テハ走向北東ヨリ東西ニ彎曲シ、法華津峠附近ニ於テハ走向北六十度、西ナルモ西方ニ進ムニ從ヒ、東西ノ走向ヲ現出シ、何處モ皆傾斜ハ北方ニ向フ

本系ノ岩層ノ厚サハ橋原村越知面、柳谷村方面ニ於テ概算スルニ約八千米アルモ此間ニハ多數ノ斷層アルヲ以テ實際ノ厚サハ是ヨリ蓋カニ薄キモノナルヘシ

化石 本系中ノ石灰岩ハ二疊紀及石炭紀ノ時代ヲ指示スル化石ヲ埋藏ス、小官ノ發見セル產地及化石名次ノ如シ(小林貞一學士鑑定)

高知縣橋原村大田戸—猪伏越 *Neofusulinella* sp.

Verbeekina sp.

Neoschwagerina cf. *simplex* Ozawa

高知縣高岡郡橋原村松谷ノ奥 *Bryozoa*, Crinoid stem

愛媛縣東宇和郡土居村川ノ中 *Fusulina* sp.

同 野村町猿坂峠 *Neoschwagerina* sp.

同 魚成村中成 *Neoschwagerina* sp.

同 高川村宮ノ裏 *Neoschwagerina japonica* Gumb.

同 横林村坂石 *Neofusulinella* sp.

同 溪筋村島鹿野 *Neoschwagerina* sp.

同 中筋村惣財久 *Fusulina* sp.

同 御在所山 *Fusulina* sp.
 同 松山 "
 同 大谷村廣常中成 *Fusulinella* sp.
 愛媛縣上浮穴郡柳谷村中久保 *Fusulina* aff. *granum-arcuatae* Roemer
 同北宇和郡三間村宮下一明間 *Fusulina* sp.; *Neoschwagerina* sp.

四、虚空藏山層

本層ハ東隣ノ須崎圓幅ニ於テ廣域ニ發達セルモノ、本圓幅地内ニ連續セルモノニシテ之ト同様ニ上下二層ニ別ツヲ得其内下部層ハ明カニ上部古生界石炭系及二疊系ニ屬スルモ上部層ハ三疊系タル疑ヒアリ、唯二疊系ト三疊系トノ境界ヲ確定スルコト能ハサルニヨリ須崎圓幅ト同様ニ三疊乃至上部古生界ノ虚空藏山層トシテ一括シテ記載シタルモ、下部層ハ本地質圖ニ於テハ秩父系トシテ塗色シタリ、故ニ茲ニ云フ虚空藏山層トハ須崎圓幅ノ虚空藏山層ノ上部層ノ謂ナリ

本層ハ圓幅内ノ東部ニ發達シ、北方ノ島ノ巢領石層トハ東西ニ走レル斷層ニ依リ境シ、南方ノ秩父系トハ其上位ニ整合的ニ累重ス、本層ハ頁岩、砂岩及硅板岩ノ累層ヨリ成ル

頁岩 灰色或ハ暗灰色ヲ呈シ普通ハ緻密堅硬ニシテ成層理ヲ現スモ、時ニ柔軟ニシテ露出面ニ於テ容易ニ小片ニ破碎スルモノアリ、一層ノ厚サハ普通一米乃至五米ナルモ、時ニ二十米ニ達シ概シテ砂岩ト互層ス

砂岩 灰色或ハ暗灰色ヲ呈シ主トシテ細粒質ノモノ多ク、時ニ中粒質ノモノアリ、一般ニ石英粒及長石粒ヨリ成レルモ、時ニ粘板岩ノ小破片、雲母、磁鐵鱗等ヲ混エ成層理ヲ現サス、塊狀ナルコト多シ、一層ノ厚サ一米乃至十米ニシテ頁岩ト互層スルコト多シ

硅板岩 灰白色、灰色或ハ暗灰色ヲ呈ス、一般ニ緻密堅硬ナリ、時ニ厚サ五層内外ノ淡色部ト濃色部ト縞狀ノ成層理ヲ現シ美麗ナル褶曲層ヲ現出セルコトアリ、一層ノ厚サ一米乃至十米ニシテ頁岩中ニ夾マル、コト多シ

構造 本層ハ上部古生層ノ上位ニ整合的ニアリ、走向東西、傾斜北方ニ六十五度ニシテ單斜層ヲ成ス、北方ノ鳥ノ巢領石層トハ東西ニ互レル斷層ヲ以テ接シ、岩層ノ厚サハ七百米内外ナリ

五、三 疊 系

本系ハ愛媛縣東宇和郡魚成村田穗附近ニ於ケル二條ノ東西ニ互レル斷層間ニ狹長ナル小

區域ヲ占メ、砂岩頁岩、石灰岩及硅板岩ヨリ成リ、厚サ三百米内外アリ

砂岩 灰色ヲ呈シ、成層理ナキ塊狀ヲ成ス、細粒質ニシテ石英、長石、雲母、磁鐵鱗ヨリ成ル、一層ノ厚サ一米乃至五米ナリ

頁岩 灰色或ハ暗灰色ヲ呈シ、稍緻密堅硬ニシテ成層理アリテ板狀ニ剝離スルモノ或ハ無層理塊狀ノモノアリ、一層ノ厚サ二米乃至十米ナリ

硅板岩 白色或ハ灰色ヲ呈シ、緻密堅硬、層理ナキ塊狀ノモノ多シ、時ニ白色部ト灰色部ト厚サ五層乃至二十層毎ニ交互シ縞狀ノ層理ヲ表ス、而シテ厚サ五米内外ノ厚サヲ以テ砂岩頁岩中ニ介在ス

石灰岩 灰色ヲ呈シ、細粒結晶質ノ方解石ヨリ成ル、魚成村田穗ニ於ケル石灰岩ハ厚サ二米内外ニシテ其中ニ化石ヲ埋藏セリ

構造 本層ハ走向略東西、傾斜北方ニ七十度内外ノ單斜層ヲ成シ、北方ノ上部古生層及南方ノ鳥ノ巢領石層トハ各東西ニ互レル二斷層ニ依リテ接シ、其間ニ陥没セル地塊ヲ成ス

化石 本層ノ石灰岩中ヨリ採集セラレタル化石ハ江原眞伍博士(S. Yehara: The Lower Triassic Cephalopoda and Bivalve fauna of Shikoku, Japanese Jour. Geol. and Geogr. Vol. V, No. 4, 1924) 及清水三郎博士(愛媛縣東宇和郡魚成村田穗上組ノ下部三疊紀「アムモナイト」ニ就テ、地球十九卷第一號昭

和八年ニヨリテ記載セラレタリ其屬種名次ノ如シ

- Meekoceras japonicum* Shimizu and Jimbo
Meekoceras apertum tenise Shimizu and Jimbo
Meekoceras kuharannum Yehara
Meekoceras kuharannum compressum Shimizu and Jimbo
Meekoceras moritanum Yehara
Meekoceras shikokense Shimizu and Jimbo
Meekoceras orientale Shimizu and Jimbo
Meekoceras katoi Yehara
Meekoceras sawatannum Yehara
Meekoceras fahoense (Yehara)
Meekoceras obscurum Shimizu and Jimbo
Anasibirites multiplicatus (Yehara)
Anasibirites onoi (Yehara)
Anasibirites pacificus (Yehara)

Anasibirites pacificus katoi (Yehara)

Anasibirites sp. nov. aff. *spiniger* Diener

Wyonispirites sp. nov. aff. *apertus* (White)

Pseudomonotis shikokensis Yehara

Pseudomonotis cf. *tennowi* Bittn.

時代 江原博士ハ本層上部ノ「アムモン」介ヲ含メル部分ヲ「ミール」コセラス帯下部ノ「シュード」モ
 ノチス「フ含メル小部」ヲ「シュード」モノチス帯ト稱シ「ミール」コセラス帯ヲ「ヒマラヤ」山ノ「ミール」
 コセラス層ト比較シテ本層ノ時代ヲ下部三疊系ト断定セリ其後清水博士ハ採取セル化石及
 江原博士ノ化石ヲ再調シテ本層ヲ「アナシビリ」テス帯ト稱シ其化石ヲ「チモール」
 「ヒマラヤ」ノ
 ルトレンヂ等ノ類似化石及近縁種ト對比シテ平均シ略スキチツク「下部三疊紀」ノ上部「コ
 ルムビタン」(Columbian)期ノモノト判定シ尙「コルムビタン」期ヨリ古期ノ化石ニ比較シ得ルモノ
 ハ「コルムビタン」期マテ残存セルモノト想像セリ尙ホ其後清水博士ハ同地方石灰岩中ヨリ
 産セル *Proarcestes* aff. *kanishi* Weller (S. Shimizu: Note on Two Carnic Species of Proarcestes of Shikoku,
 Japanese Jour. of Geol. and Geog. Vol. V III, No. 3, 1931) ヲ記載セリ本化石ハ「カルムツク」(上部三疊紀)ニ
 屬スルモノニシテ「コルムビタン」期ノモノト共ニ狭長ナル地域中ニ産シ各精密ニ區劃スル

能ハス、故ニ田穂ノ三疊系ハ單ニ下部三疊系ノミニアラサル惧アリ、故ニ茲ニハ單ニ三疊系トシテ記述シ置ケリ

六、珠 羅 系

(一) 安 藝 川 統

本統ハ上部古生層ノ南即チ國幅ノ中央部ニ於テ略東西ニ互リ帶狀ヲ成シテ發達ス、主トシテ砂岩頁岩ノ互層ヨリ成リ放散蟲頁岩ヲ挾有セリ、本統ハ東隣ノ須崎國幅ヨリ連互シ上下ノ二層ニ分タル

(イ) 下 部 層

本層ハ多數ノ放散蟲頁岩層ヲ挾メル砂岩頁岩ノ互層ナリ

砂岩 灰色或ハ暗灰色ヲ呈ス、成層理ヲ示サス塊狀ヲ成シ細粒乃至粗粒ニシテ石英及長石ヨリ成リ粘板岩ノ破片ヲ交ヘ粘土質物ヲ以テ膠結セラル、厚サ〇三米内外ニテ頁岩ト互層セル帶狀狀ヲ現出ス、是レ本系ノ特質ナリ、而シテ普通ニハ厚サ一米乃至十米ナリトス

頁岩 灰色或ハ暗灰色ヲ呈シ時ニ黑色ナルモノアリ、成層理明ラカニシテ良ク層面ヨリ板狀ニ剝離スルモノ、成層理ナクシテ緻密塊狀ノモノ、或ハ稍柔軟ニシテ裂目多ク容易ニ小片ニ

破碎スルモノアリ、時ニ不規則形ノ泥灰岩ヲ含ム、厚サ十種内外ニテ砂岩ト互層ヲ成シ普通ニハ一層厚サ一米乃至十米ナリ

螢岩 暗灰色ヲ呈シ小豆大乃至胡桃實大ノ砂岩粘板岩、硅岩、角岩等ノ礫ヲ暗灰色砂質粘土ニテ膠結シ厚サ〇五米乃至三米ナリ

放散蟲頁岩 普通紅色或ハ紅紫色ヲ呈シ稀ニ淡綠色ヲ呈ス、本岩ニハ膠結度弛ク軟質ニシテ成層理ヲ現シ厚サ三種内外ノ薄板狀ニ剝離スルモノト、稍硅質ニシテ緻密堅硬層理ヲ缺キ塊狀ナルモノトアリ、共ニ微粒ノ長石、石英ヨリ成リ土狀物ニテ膠結セラレ赤鐵礦ノ微粒ヲ含ミ放散蟲ノ形骸ヲ包藏セリ、一層ノ厚サ一米乃至五米ナリ

構造 東部高岡郡橋原村北宇和郡日吉村ニ於テハ走向東西乃至北六十度西傾斜北方六、七十度ナルモ唯橋原村下折渡川井ニ於テ傾斜南方ニ四十度ナルハ局部ノ褶曲或ハ斷層ノ爲メナルヘシ、中央部北宇和郡日吉村、三島村、愛治村、二名村ニ於テハ區域狭小ナル帶狀ヲ成シ走向日吉村日向谷ニ於テ北六十度東、愛治村ニ於テ東西、傾斜共ニ北方五十度乃至七十度ナリ、西部吉田町附近數箇村ニ互レルモノハ東西ノ斷層及略南北ノ斷層ニヨリ數區ノ地塊ニ分カタレ、一般ニ走向東西乃至北六十度東、傾斜北方ニ五十度乃至七十度ナルモ、斷層附近ニ於テハ或ハ走向北五十度東或ハ北四十度西等ヲ示シ傾斜北東或ハ北西方ニ五十度内外ニシテ斷層ノ爲

メニ地層擾亂セリ

本層ハ東部ニ於テ走向東西ヨリ北六十度西ニ中部ニ於テ北六十度東ヨリ東西ニ漸次轉向シ彎曲層ヲ形成シ西部ニ於テ走向約東西トナリ各部共ニ一般ニ北方ニ傾斜シ之ニ小向斜及小背斜ノ小褶曲ヲ伴ヘリ而シテ西部ニ於ケル各斷層地塊モ北方傾斜ノ單斜層ヲ成セリ

(ロ) 上層部

本層ハ圖幅内ニ於テ僅カニ東部ノ小區域ニ發達シ東隣ノ須崎圖幅ニ廣域ニ發達セルモノニ連續セリ本層ハ砂岩頁岩ヨリ成リ唯僅カ一箇處ニ於テ赤色放散蟲頁岩ヲ挾有セリ

砂岩 灰色或ハ暗灰色ヲ呈ス細粒乃至中粒ニシテ石英長石ヨリ成リ粘板岩ノ小破片ヲ含メルモノ多ク粘土質物ニテ膠結セラル厚サ十釐乃至三十釐ニテ頁岩ト美麗ナル縞狀ノ互層ヲ成スモノト厚サ一米乃至五米ニテ頁岩ト互層セルモノトアリ

頁岩 普通灰色或ハ暗灰色ヲ呈シ時ニ綠色黑色或ハ紅色ヲ呈ス概シテ緻密堅硬ニシテ成層理ヲ現シ板狀ニ剝離スルモ時ニ柔軟ニシテ小片ニ破碎シ易キモノ成層理無ク塊狀ヲ成スモノアリ厚サハ〇三乃至十米ナルモ薄キモノハ砂岩ト美麗ナル縞狀ノ互層ヲ成シ一米乃至十米ニ達スルモノハ砂岩トノ互層ナルモ其厚サ不規則ナリ紅色ヲ呈スルモノハ樽原新田間ノ道路ノ一側ニ露出シ放散蟲ノ形骸ヲ含ミ赤鐵鱗粒ト粘土質物ヨリ成ル

構造 本層ハ圖幅内ノ東部當別時高野附近ノ一小區域ニ發達シ岩層ハ北東乃至東西ニ走り高野附近ノ北方ニ於テハ北方ニ八十度傾斜スルモ中洞附近ニ於テハ南方ニ八十度傾斜ス概シテ急斜セル岩層ナルヲ以テ構造ヲ明確ニ知り難キモ略東西ニ互レル向斜層ヲ成セルモノ、如シ而シテ南方ノ安藝川下部層トハ正斷層北方ノ秩父系トハ逆斷層或ハ尙上斷層ヲ以テ相接スルモノト推定ス

(二) 四萬十統

本統ハ圖幅内ノ東南部ヲ占メ主トシテ頁岩砂岩ノ互層ヨリ成リ之ニ角岩燧岩石灰岩及放散蟲頁岩ヲ伴フ

全層ノ厚サ約五千米ニ達ス

頁岩 灰色或ハ暗灰色ヲ呈シ成層理ナク塊狀ヲ呈スルモノ多キモ時ニ成層理ヲ現シ層面ニ沿ヒ板狀ニ剝離スルモノアリ一層ノ厚サ普通一米乃至十米ニシテ厚キモノハ三十米ニ達スルコトアリ薄キモノハ一層ノ厚サ〇三米内外ニシテ砂岩ト縞狀ノ互層ヲ成ス

砂岩 灰色或ハ灰白色時ニ暗灰色ヲ呈ス稍堅硬ニシテ普通細粒質ナリ石英長石磁鐵鱗有色鱗物等ヨリ成ル厚サ普通一米乃至三米ナルモ厚キモノハ二十米ニ達シ薄キモノハ〇三米

乃至〇五米ニテ薄キ頁岩ト美麗ナル互層ヲナセリ

角岩 灰色或ハ淡綠色ヲ呈シ硅質ニシテ緻密堅硬ナリ

一層ノ厚サ一米乃至五米ナリ

鑿岩 灰色ヲ呈シ砂岩粘板岩硅岩角岩等ノ小豆大乃至胡桃實大ノ礫ヨリ成リ灰色ノ砂粒ニヨリテ膠結セラル、モノト綠色粘土質砂粒ニヨリテ膠結セラル、モノトアリ一層ノ厚サ一米乃至三米ナリ

放散蟲頁岩 紅色或ハ紅紫色ヲ呈シ成層理無ク塊狀ノモノト成層理ヲ現シ薄板狀ニ剝クルモノトアリ赤鐵鱗粒ヲ含メル粘土質物ヨリ成レルモノト細粒ノ角陵アル砂粒ヲ交フルモノトアリ概シテ放散蟲ノ形骸ヲ含ムモ時ニ全ク之ヲ發見セサルコトアリ一層ノ厚サ一米乃至五米ナリ

石灰岩 灰色ヲ呈シ緻密堅硬ニシテ細粒ノ方解石ヨリ成リ粘土質物ヲ交フ時ニ鱗狀ヲ呈シ粘土質物ヲ交ヘ鳥ノ巢石灰岩ト同様ノ化石ヲ含ムコトアリ本岩ハ頁岩中ニ扁桃狀ヲ成シテ介在シ厚サ大ナル部分ニテ一米乃至三米ナリ

構造 本統ハ日吉村父ノ川ヨリ東方北ノ川ニ互レル斷層ヲ以テ北方ノ安藝川統下部層ニ接シ西方ハ北々東南々西ニ走レル斷層ニヨリ上部白堊系ニ接ス本統ハ圖幅内ニ於テ昭和村

大道大正村中津川ニ互レル放散蟲頁岩及角岩ヲ挟メル砂岩頁岩層ヲ下部トシ其上ニ奥藤川霧立山ニ發達スル砂岩頁岩層其上ニ宮成地方ニ發達セル鳥ノ巢石灰岩ヲ挟メル砂岩頁岩層アリ

岩層ノ一般走向及傾斜ヲ述フレハ東部播原川沿岸ニ於テ走向北六十度西乃至東西ニシテ傾斜北方ニ七十度内外中部霧立山向畑附近ニテハ走向東西ニシテ傾斜北方ニ六十度乃至八十度西部藤ノ川大畑ニ於テハ走向北四十度乃至六十度東傾斜北西方ニ四十度乃至六十度ナリ即チ岩層ハ東ヨリ西ニ夏リ北方ニ突出セル一ツノ彎曲層ヲ成シ概シテ北西ニ傾斜セル單斜層ナリ而シテ此ノ間ニ奥藤川蛭谷ニ互レル北東南西ノ斷層及多數ノ走向斷層發達セリ

七、鳥ノ巢・領石統

本統ハ秩父系安藝川統及上部白堊系ノ境域或ハ此等ノ岩層中ニ斷層ニヨリテ圍マレ數區ニ分レテ賦存シ頁岩砂岩鑿岩ヨリ成リ所謂鳥ノ巢石灰岩ヲ伴フ岩層ナリ

頁岩 灰色或ハ綠色ヲ呈シ概シテ成層理ナク塊狀ナルモ時ニ成層理ヲ現シ板狀ニ剝離ス、一般ニ稍柔軟ニシテ露頭ニテハ角稜アル小片ニ破碎シ易シ一層ノ厚サ普通一米乃至五米ナルモ時ニ二十米ニ達スルコトアリ

砂岩 灰色或ハ帶綠灰色ヲ呈シ、細粒質或ハ粗粒質ニシテ、粗粒ノモノハ屢々疊岩ニ移過セリ、本岩ハ主トシテ石英、長石ノ破片或ハ粒子ヨリ成リ、磁鐵、赤鐵、其他有色礦物粒ヲ混ニ、厚サ一米乃至五米ニシテ、土居村菊谷上流ノ本岩中ヨリハ *Akane* 等ヲ採集セリ

疊岩 綠色、灰色或ハ紅色ノ硅板岩ノ小豆大乃至胡桃實大ノ礫ヨリ成レルモノトアリ、共ニ砂粒ニヨリテ膠結セラル、兩者ハ發達ノ場所及位置ヲ異ニシ、前者ハ本統ノ下部後者ハ上部ニ發達セリ、一層ノ厚サハ兩者共ニ一米乃至五米ナリ、上部ニアル疊岩中ニハ化石ヲ埋藏シ、高川村成及土居村菊谷ニ於ケル本岩中ヨリ *Trigonia kibuchiana* Yok. 及 *Trigonia pectiformis* Yok. ノ化石型ヲ採集セリ

石灰岩 灰色或ハ暗灰色ヲ呈ス、本岩ハ緻密堅硬ニシテ、成層理ナク塊狀ヲ呈シ扁桃狀ヲ成シテ頁岩中ニ介在セリ、主トシテ細粒ノ方解石ヨリ成リ、粘土質ヲ交フルモ時ニ粘土質部ト石灰質部ト層狀ヲ現スコトアリ、又屢々割狀ヲ呈スルモノモ發見セラル、本岩中ニハ化石ヲ埋藏シ其最多キ時ハ化石ノ集合物ヲ石灰質粘土ニヨリテ膠結セルコトアリ、一層ノ厚サ一米乃至五米ナリ

化石 本統中ノ石灰岩ハ所謂島ノ巢石灰岩ニシテ珊瑚類、石灰藻類、層孔蟲類、有孔蟲、海膽腕足類等ノ化石ヲ含有ス

井上博士ハ二十萬分一字和島圖幅地質説明書中ニ於テ北宇和郡愛治村大宿ノ石灰岩中ニ有孔蟲 *Textularia*, *Kolaba* 珊瑚類 *Isostrea*, *Tamnostrophia*, *Latinendra* 蘇蟲類其他ヲ産シタルヲ記載セリ、層孔蟲類ニ就テハ早坂博士ハ東宇和郡野村町附近ノ島ノ巢石灰岩中ヨリ *Chrysorella semiclavata* Hayasaka ㊦記載シ、(I. Hayasaka: On a new Hydrozoan Fossil from the Toinosu Limestone of Japan 東北帝國大學理科報告地質學部第四卷第二號一九一七年) 矢部博士及杉山學士ハ東宇和郡魚成村櫻峠野村町木落等ヨリ次表ニ示スカ如ク五種ヲ産スルヲ誌シ、(H. Yabe and T. Sugiyama: Stromatoporaids and Related Form from the Jurassic of Japan—Japanese Jour. of Geol. Geogr. Vol. VIII, No. 1—2, 1930) 又前記櫻峠及木落ヨリ *Stromatopora yokoyamai* Yabe et Sugiyama ㊦記載セリ、(H. Yabe and T. Sugiyama: On Some Spongiomorphoids Corals from the Jurassic of Japan—東北帝國大學理科報告地質學部第十四卷第二號一九三一年)

Achirostromaria ebimurae Yabe et Sugiyama 魚成村櫻峠、野村町木落

Stromatopora crassiflora Yabe et Sugiyama 野村木落

Stromatopora japonica Yabe 魚成村櫻峠、下宇和村板谷峠、土

Stromatopora memoria-nanumami Yabe 居村土居古市間高川村池野々

野村町木落、魚成村櫻峠 (㊦)

Stromatopora memoria-nanumami var. *kemii* Yabe et Sugiyama 野村町木落

今回調査中島ノ巢石灰岩ヨリ採集シタル化石ハ左ノ如シ

高知縣橋原村越知面	<i>Chaetopsis</i>
越知面高野越間	<i>Stromatopora, Chaetopsis</i>
成田野々間	<i>Stromatopora</i>
大越竹藪	<i>Chaetopsis</i>
愛媛縣東宇和郡土居村南	<i>Cidaris, Ostrea</i> sp.
中津川	六射珊瑚
下相	<i>Terebratulina hisuifarcinata</i> Ziecen, <i>Stromatopora</i>
土居村古市	<i>Cidaris</i> 棘珊瑚
高川村成	<i>Stromatopora</i> , 珊瑚
同 川津	<i>Chaetopsis crinita</i> Neumayr, <i>Stromatopora</i> 海膽棘
愛媛縣東宇和郡魚成村古市	<i>Pycnosporidium lobatum</i> Yabe et Toyama
廣田	六射珊瑚
櫻峠	六射珊瑚
野村町木落	<i>Pycnosporidium, Cidaris</i> , 六射珊瑚

溪筋村鮎鮪 *Stromatopora*

四郎ヶ谷 *Chaetopsis crinita* Neumayr, *Cidaris*

野村町深山 六射珊瑚

下宇和村中駄場 珊瑚

北宇和郡愛治村大宿 *Circoporella semiclastrata* Hayasaka, *Nipponophylaxis?*, *Stromatopora*, 珊瑚

日吉村高皿 *Circopora*, 珊瑚

富母里成間 *Circoporella semiclastrata* Hayasaka

泉村興野々 珊瑚

本統ノ砂岩及蟹岩中ヨリハ前記セルカ如ク次ノ二枚介化石ヲ發見セリ

土居村菊谷上流 *Astarte* sp.

土居村菊谷及高川村成 *Trigonia kibucikiana* Yok.

Trigonia poelliformis Yok.

尙ホ野村町伊勢井谷ニ於テハ清水博士ハ *Nitsonia*, *Cladophylaxis* ヲ發見セリト云フ昭和七年
日本地質鑛産誌第七十五頁)

鳥ノ巢石灰岩ハ其化石ニヨリ一般ニ上部珠羅紀ノモノトシテ知ラレ砂岩蟹岩中ノ二枚介

ハ下部白堊紀ヲ指示スルモノトセラレ、伊勢井谷ノ植物化石ハ傾石統ノモノナルヘク、因テ本統ヲ珠羅紀ヨリ白堊紀ニ跨カレル鳥ノ巢領石統トシタルナリ

構造 本統ハ越知面、長谷橋原、川津土居、野村以西ノ南北中央部ノ三帶、高皿窓時等ノ諸區域ニ賦存ス、

各區域ノ地質構造及岩層ノ狀況ハ次ノ如シ

橋原村越知面區域ニ於ケルモノハ砂岩頁岩疊岩ヨリ成リ、一般ニ走向北六十度東、傾斜北西方ニ六十度ニシテ、大田戸及田野々ニ於テハ傾斜南方ニ六十度或ハ直立シテ斷層ヲ以テ古生層ニ接セリ、本區域ノ砂岩中ニハ炭化物ヲ埋藏シ、鳥ノ巢層ノ上位ニアル傾石層ヲ想起セシムルカ如キモノアリ

長谷區域ハ越知面斷層ノ南ニ在リ、本統ハ砂岩頁岩ノ互層ヨリ成リ之ニ一層乃至三層ノ石灰岩ヲ挟ム、走向ハ略東西ニシテ傾斜北方ニ六十度内外ナリ、本區域ニ現ル、岩層ノ厚サヲ概算スルニ約五百米アリ、田野々ノ石灰岩中ニハ鳥ノ巢統ノ化石ヲ埋藏ス

橋原區域ハ橋原ノ東ノ神在居ヨリ西方ノ高川村川津ニ互レル地帯ニシテ此區域ノ本統ハ斷層ニヨリテ北南西ノ三部ニ分カタル

橋原附近ニ於テハ神在居竹ノ藪ヲ通シ東西ニ互レル斷層アリテ北部ト南部トニ分カタル、

北部ニ於テハ砂岩頁岩ニ石灰岩ヲ伴ヒタル岩層發達シ、石灰岩中ニハ鳥ノ巢統ノ化石ヲ埋藏シ、明カニ鳥ノ巢統即チ上部珠羅紀ニ屬ス、走向ハ略北七十度東ニシテ傾斜北方ニ六十度乃至八十度ヲ現シ、單斜層ヲ構成ス、南部ニ於テハ主トシテ砂岩頁岩發達シ之ニ厚サ五米内外ノ疊岩ヲ挟ミ、疊岩中ニハ石灰岩礫ヲ含ム、岩層ハ一向斜ヲ形成シ、褶曲層ヲ現セリ、疊岩中ノ石灰岩礫ニハ化石ヲ發見セサルニヨリ其石灰岩ノ時代ハ不明ナルモ含石灰岩礫疊岩ハ鳥ノ巢統ヨリ上位ニアルカ如キ觀アリ、或ハ下部白堊紀ニ屬スル岩層ナルカ如シ、大麥附近ノ西部區域ニテハ北東ヨリ南西ニ互レル斷層ニヨリテ前記ノ南部區域ト接シテ一區劃ヲ占メ、之ニ發達セル本統ハ鳥ノ巢石灰岩ヲ挟メル砂岩頁岩層ニシテ走向略北六十度東、傾斜北西方ニ六十度内外ニシテ單斜層ヲ形成ス

川津區域ハ東西乃至北東—南西ニ互レル斷層ニヨリ東西ニ延長セル一區ヲ成ス、川津ニハ砂岩頁岩疊岩及石灰岩ノ累層成附近ニ於テハ南ヨリ北ニ順次石灰岩ヲ挟メル砂岩頁岩層細粒灰白色砂岩ヲ挟メル砂岩疊岩層、石灰岩ヲ挟メル疊岩、砂岩頁岩ノ累層發達セリ、走向ハ略東西傾斜北方ニ五十度乃至八十度ナルモ成及中津川ヲ通スル南境ノ斷層附近ニ於テハ垂直或ハ南方ニ八十度傾斜セリ、

石灰岩中ニハ鳥ノ巢統ノ化石ヲ含ミ、此石灰岩ヲ挟メル砂岩頁岩疊岩ノ累層ハ上部珠羅紀

ヲ表シ、灰白色砂岩ヲ挟メル砂岩、蟹岩層ハ蟹岩中ニ *Trigonia jectiformis* Yok., *T. Akue-Homa* Yok. ヲ砂岩中ニ *Acarya* sp. ヲ含メルニヨリ下部白堊紀ヲ表スルモノナリ

川津以西ニ於テハ本統ハ三帯ヲ成シテ發達ス、中央部土居野村區域ノ一帶ハ最も發達良好ニシテ土居附近ヨリ、魚成、野村町ノ南ヲ經テ溪筋村、鮎歸迄連互シ砂岩、頁岩、蟹岩及石灰岩ノ累層ヨリ成ル、走向一般ニ東西傾斜、北方ニ五十度乃至八十度ニシテ、單斜層ヲ成シ、全岩層ノ厚サハ約五百米ナリ、本地域ノ石灰岩ハ一層乃至三層アリ、各島ノ巢統ノ化石ヲ埋藏シ、伊勢井谷ニ於ケル石灰岩中ニハ二枚貝及腕足類ノ化石ヲ含ミ、又該石灰岩ノ上位ニアル砂岩、蟹岩ノ累層中ヨリハ、領石統ノ植物化石ヲ採集セラレタリト云フ、即チ本地域ノ大部ハ島ノ巢統ナルモ伊勢井谷ニ於テハ領石統マテ發達セルカ如シ

北部ノ帶ハ板取川、嘉喜尾、四郎ヶ谷ノ南ノ三小區域ニ散在セリ、板取川及嘉喜尾ニ於テハ蟹岩ヲ挟メル砂岩、頁岩層發達シ、走向板取川ノモノハ不明ナルモ、嘉喜尾ノモノハ略東西傾斜、北方ニ四十度乃至六十度ニシテ、單斜層ナリ、四郎ヶ谷ノ南ノモノハ古生層内ノ斷層溝中ニ東西ニ長キ帶狀ノ地域ヲ占メ、石灰岩ヲ挟メル砂岩、頁岩層ニシテ、走向略東西傾斜、北方ニ七十度内外ナルモ、斷層附近ニ於ケル傾斜ハ南方八十度内外ニシテ、岩層稍亂ル、如シ石灰岩中ニハ島ノ巢統ノ化石ヲ埋藏シ、上部珠羅紀ニ屬スルモノ、如シ南部ノ帶ニ屬スルモノハ古市附近安

家谷、大宿、深山、中駄場ノ四小區域ニアリ、古市附近ノモノハ川津區域ヨリ分岐シテ古生層ノ一地壘ヲ隔テ、其南ニ南西ニ發達シ、砂岩、頁岩層ヨリ成リ、石灰岩ヲ挟ム、走向略東西傾斜、北方ニ六十度内外ナリ、安家谷ノモノハ斷層ヲ以テ古市附近ノモノト絶タル、モ其南西ニ連ナリ、砂岩、頁岩層ヨリ成ル、之ニ化石ヲ産セサリシモ、岩石ハ他ノ區域ノ島ノ巢統ニ類似シ、走向北六十度東、傾斜北西方ニ七十度内外ナリ、是ヨリ南方ノ本統ハ愛治村、大宿、深山及下宇和村、中駄場ニ斷續シ、共ニ上部古生層、秩父系ノ斷層溝中ニ小區域ニ發達セル砂岩、頁岩層ニシテ、之ニ大宿ニ於テハ含化石石灰岩二層、深山ニ於テハ暗灰色、錫狀石灰岩一層、中駄場ニ於テハ珊瑚石灰岩一層ヲ伴ヘリ、走向ハ各地ニ於テ略東西ナルモ、斷層附近ニ於テハ亂雜トナリ、傾斜概シテ北方ニ六十度内外ナルモ、南方ニ斜下セル部分モアリ、各地ノ地層ハ石灰岩中ノ化石ヨリ推定スルニ大部分ハ島ノ巢統、即チ上部珠羅紀ニ屬スルモノナルヘシ

本統ハ此他ニ御在所、山南、側高皿附近及三間村、憲時附近ニ發達ス、高皿區域ニ於ケルモノハ砂岩及頁岩ヨリ成リ、石灰岩ヲ挟ミ、北東ヨリ南西ニ互レル斷層溝中ニアリ、走向北東—南西ニシテ、傾斜北西方ナリ、本區域ノ石灰岩中ニハ島ノ巢統ノ化石ヲ埋藏セリ、憲時區域ニ於ケル本統ハ主トシテ蟹岩、頁岩ヨリ成リ、砂岩及石灰岩ヲ挟ミ、北東—南西ニ互レル二平行斷層、南北ニ互レル二斷層ニ圍マレタル斷層地塊ヲ成シテ發達セリ、走向ハ略東西ニシテ、傾斜南ニ三十度

乃至六十度ヲ示ス。本區域ノ石灰岩中ニハ *Chonetes* ノ刺ヲ含ミ鳥ノ巢統ヲ表スカ如シ

八、上部白堊系

本系ハ圓幅ノ南部ニ發達シ砂岩頁岩砂質頁岩及疊岩ヨリ成リ岩層ハ斷層ニヨリ數區域ニ分ル、モ、大體泉ヶ森ヨリ榎ノ山ニ互レル西部ノ砂岩頁岩疊岩層ト、成藤ヲ中心トシテ東部ニ發達セル含化石砂質頁岩ヲ挾ミ疊岩砂岩ヲ伴ヘル頁岩層トニ分タル前者中ニハ鬼ヶ城山宇和島圓幅地内ノ花崗岩ノ貫入ノ爲メ硬化シ或ハ變質シテ「ホルンフェルス」トナレルモノアリ

砂岩 灰色灰白色帶綠灰色ヲ呈シ普通層理ナク塊狀ヲナシ時ニ層理ヲ示ス中粒乃至粗粒ニシテ石英、長石、雲母、磁鐵礦ヨリ成リ一層ノ厚サ一米乃至十米ナリ

頁岩 灰色、暗灰色、或ハ綠色ヲ呈シ層理無ク塊狀ニシテ玉葱狀ノ裂理アリ又小片ニ破碎シ易シ時ニ層理ヲ現シ板狀ニ剝離スルモノアリ厚サ普通一米乃至五米ナルモ厚キモノハ三十米ニ達スルコトアリ

砂質頁岩 暗灰色ヲ呈シ層理ナク塊狀ニシテ膠結稍弛ク玉葱狀或ハ不規則ナル裂罅アリテ裂性著シ厚サ三米乃至十五米ナリ本岩中ニハ化石ヲ埋藏セリ

疊岩 暗灰色或ハ灰色ヲ呈ス小豆大乃至拳大時ニ頭大ノ砂岩頁岩、角岩粘板岩、斑岩等ノ礫

ヲ暗灰色或ハ灰色粘土交リノ砂粒ニヨリテ膠結セルモノナリ時ニ綠色、灰色等ノ角岩礫ヲ含ミ雜色ヲ呈スルコトアリ厚サハ一米乃至五米ナリ

構造 西部ナル泉ヶ森ヨリ榎ノ山ニ互レル本系ハ走向略東西傾斜北方ニ四十度乃至八十度ニシテ單斜層ヲ成シ厚サ千五百米ニ達ス、皆波、増田附近ニ於テハ走向北七十度西傾斜北方五十度内外、又河舞附近ノモノハ稍頁岩ニ富ミ變質セルコト少ナシ

東部ナル成藤附近ノ本系ハ、石神峠ヨリ澤松ニ互レル斷層、清水ヨリ國遠ニ互リ略南北ニ走レル斷層及國遠ヨリ略東北東ニ廣見ニ向テ走レル斷層ニヨリテ大内、成藤、西野々、油谷ノ四區域ニ分カタル、大内區ニ於テハ走向南北ヨリ北四十度西ニシテ向斜層ヲ成シ、成藤區ニ於テハ黒川ニテ走向北二十度西傾斜東方ニ七十度中間^{トナリ}ニテ走向北二十度東、傾斜西方ニ八十度御瀧ニテ走向北六十度東、傾斜南東方六十度、成藤ニテ走向北二十度西傾斜東方ニ二十度ヲ示シ、一背斜及一向斜層ヲ形成ス、西野々區ニ於テハ走向北二十度東乃至北四十度東、傾斜北西方ニ二十度乃至四十度ニシテ單斜層ナリ、又油谷區ニ於テハ走向北四十度東、傾斜北西方ニ四十度乃至五十度ニシテ單斜層ナリ、成藤區ノ本系ハ概シテ下部ハ砂岩頁岩層、上部ハ頁岩砂質頁岩層ニシテ厚サ五百米内外ト概測ス

化石及時代 本系ノ砂質頁岩中ニハ屢々「イノセラムス」ノ化石ヲ埋藏シ又「アムモン」介及海

膽ヲモ産セリ江原博士ハ大内及清結ニテ下部ノ楨ノ山蟹岩中ヨリ *Inoceramus cf. regularis* D'Orb.
ヲ成藤ニテ中部ノ砂岩中ヨリ「イノセラムス等ノ二枚介ヲ産スルヲ誌セリ(Jap. Journ. Geol. Geogr.
Vol. III, No. 1, 1924)

更ニ今回發見シタル化石産地及其他ノ化石名次ノ如シ

二名村大内及黒川

Inoceramus unguinaensis Yehara

同村中間

Inoceramus cf. regularis d'Orb.

好藤村成藤

Inoceramus cf. regularis d'Orb.

同村中間

Inoceramus unguinaensis Yehara

好藤村成藤

Gaudryceras sp., Echinoid

同村成藤上組奥

Inoceramus sp., Echinoid

愛治村清水下組

Inoceramus cf. regularis d'Orb.

三島村廣見ノ對岸

Inoceramus sp.

泉村岩谷ノ對岸

Inoceramus sp.

右ニ掲ケタルカ如ク所産化石ハ天草下島及豊後犬飼附近ノ白堊系産ノモノト類似シ本岩

層ハ上部白堊系ニ屬スルモノナリ

九、更 新 統

本統ハ砂礫及粘土ヨリ成リ、愛媛縣土居村古市、魚成村野村町地方ニ於ケルモノハ、河岸ニ堆
段堆積層ヲ成シテ發達シ、主トシテ砂礫ヨリ成リ、稀ニ粘土ヲ交ヘ厚サ一米乃至二十米ナリ、日
吉村高野子ニ發達セル本統ハ主トシテ粘土ヨリ成リ、其上位ニ薄キ砂礫アリ、全部ノ厚サ八十
五米内外ナリ

十、現 世 統

本統ハ沖積層ニシテ砂礫及粘土ヨリ成リ、海岸及河流ノ沿岸ニ發達セリ

十一、花 崗 斑 岩

本岩ハ泉ヶ森ノ南西側ニ於テ上部白堊系ヲ貫通シテ岩脈ヲ成ス、南隣宇和島國幅地内ノ高
月山附近ニ廣ク露出スル黒雲母花崗岩ノ周縁部ニ於ケル一岩肢ト認ムヘキモノニシテ、彼ノ
黒雲母花崗岩ニ比シ稍斑狀ヲ呈ス

岩石 灰色ヲ帯ヒ斑狀ヲ呈シ殆ント完晶質、石基ハ細粒結晶質ナリ
 主成分—正長石、斜長石、石英 副成分—白雲母、風信子、鱗、磁鐵、鱗灰石、次生綠簾石
 斑晶ヲ成スモノハ主ニ正長石及斜長石ナリ、正長石ハ大サ一耗乃至五耗ノ短柱狀、自形結晶
 ニシテ大ナルモノハ斑晶ヲ成ス概ネ、カールスバド變晶ヲ成シ又陶土化作用ヲ受ケ高陵土及
 絹雲母ニ分解セルモノ多シ、斜長石ハ概シテ中性長石或ハ是ヨリ酸性ノモノニシテ大サ一耗
 内外ノ半自形結晶ニシテアルバイト或ハカールスバド變晶ヲ成ス、石英ハ一耗乃至三耗ノ粒
 狀晶ヲ成シテ長石間ヲ填充ス、白雲母ハ鱗片狀、風信子鱗ハ短柱狀、磁鐵鱗ハ粒狀或ハ八面體鱗
 灰石ハ細柱狀、綠簾石ハ柱狀又ハ粒狀ニシテ何レモ大サ一耗以下ナリ

十二、石英斑岩

本岩ハ北宇和郡高光村及三間村地内泉ヶ森ノ北麓ニ上部白堊系ヲ貫キ岩脈ヲナス
 岩石 灰色ニシテ斑狀ヲ呈シ石基ハ細粒結晶質ナリ

主成分—石英、正長石 副成分—雲母、斜長石、風信子、鱗、鱗灰石、磁鐵鱗

石英ハ兩錐狀或ハ粒狀、正長石ハ自形ノ柱狀或ハ半自形ヲ呈シ、大サ五耗内外ニシテ斑晶ヲ
 ナス、雲母ニハ黑雲母及白雲母アリテ共ニ鱗片狀ヲ呈ス、隨伴鱗物タル磁鐵鱗及風信子鱗ハ細

粒狀、鱗灰石ハ柱狀ナリ

十三、斑 縞 岩

本岩ハ秩父系ヲ貫キ大小ノ岩床ヲ成シテ露出セリ、其最モ大ナルハ東宇和郡釜川附近ノモ
 ノニシテ東ハ土居村、吉野澤ヨリ西ハ野村町、手都合迄約十耗ニ亙リ、秩父系ノミナラス一部ハ
 鳥ノ巢層ヲモ貫通セリ

右ノ釜川附近ノ斑靄岩、床及土居村寺野及男地ノ斑靄岩ニハ其ノ一部ニ輝石ノ外角閃石
 ニ富ミ、斜長石モ曹灰長石ノ外ニ中性長石ヲ交フル部分アリテ一見閃綠岩ニ近似セルモノア
 リ、然ルニ其一方ニ於テハ本岩中不規則ニ或ハ概シテ周緣部ニハ往々蛇紋岩ヲ伴隨スルノミ
 ナラス、福原村松谷ニテ古生層ヲ貫ケルモノハ一部蛇紋岩ニ變質セリ

岩石 綠色ヲ呈シ中粒完晶質ナリ

主成分—輝石、曹灰長石 副成分—磁鐵、鱗灰石、チタン、鐵鱗、角閃石、綠泥石、綠簾石、方解石
 曹灰長石ハ大サ一耗乃至五耗ニシテ柱狀又ハ半自形ヲ成ス、アルバイト式變晶ヲ示シ、分解
 シテ方解石、絹雲母ノ集合ニ變セル部分アリ、輝石ハ淡紫色ヲ帯ヒタルチタン、輝石ニ屬シ、大サ
 一乃至三耗ノ柱狀結晶ニシテ長石ノ間隙ニ點在シ或ハ充填セリ、一部ハ分解シテ綠泥石、綠簾

石角閃石等ノ集合物トナレリ、角閃石ハ長柱狀結晶ノ放射狀集合體又ハ單晶ヲナス、綠帘石ハ細粒綠泥石ハ毛狀、粒狀或ハ旋毛狀ヲ呈ス、磁鐵礦ハ小ナル粒狀ノ結晶ニシテ、チタン鐵礦ハ卓狀ノ結晶ヲナシ、磷灰石ハ小柱狀ノ結晶ナリ

十四、蛇紋岩

本岩ハ斑靨岩ト隨伴シテ其中ニ或ハ其周緣部ニ現出スルモノト、斑靨岩ト同シク單獨ニ秩父系ヲ貫キ岩床或ハ岩脈ヲナスモノトアリ、上浮穴郡浮穴村、東宇和郡惣川村、高岡郡橋原村、井桑、永野等ニ現出スルモノハ後者ニ屬シ、喜多郡村島、東宇和郡釜川、魚成村、成徳ノモノハ前者ニ屬ス、又土居村、男地及寺野、橋原村、松谷ノ斑靨岩ニモ本岩ヲ伴フ

岩石 綠色、濃綠色等ヲ呈シ、綠泥石、蛇紋石、磁鐵礦、チタン鐵礦等ヨリ成リ、其集合狀態ハ旋毛狀ヲ呈ス、右ノ鑛物ノ外ニ綠帘石、格魯謨鐵礦、泥混スルコトアリ

十五、輝綠岩

本岩ハ愛媛縣喜多郡大谷村、白石、同村、廣常、上浮穴、郡柳谷村、中久保及東宇和郡魚成村、成徳橋並ニ高知縣高岡郡橋原村、六丁及越知、面大田戸ニ於テ何レモ秩父系ヲ貫通シテ岩脈ヲ成シ、或

ハ岩床狀ヲナシテ現出ス

此外愛媛縣喜多郡菅田村、小倉、下村、島ニ本岩トシテ塗色セルモノハ其一部ニ斑靨岩ノ部分アルモ、久万、圖幅トノ連絡上本岩ニ包括シ置キタリ

岩石 綠色或ハ暗綠色ヲ呈シ、廣常ノモノハ緻密成、成徳橋ノモノハ稍粗粒ナルモ、他ノモノハ中粒結晶質ニシテ、鏡下ニハ輝綠岩構造ヲ呈ス

主成分—曹灰長石、輝石、副成分—角閃石、磁鐵礦、次生鑛物—綠泥石、綠帘石、方解石、沸石、曹灰長石ハ〇五乃至四耗ノ短冊形ヲナシ、放射狀ニ配列シ、或ハ不規則ニ集簇シ、各晶ハアルバイト、雙晶或ハ稀ニ「カール」ス、バド、雙晶ヲナス、輝石ハ長石ノ間隙ニ半自形柱狀或ハ粒狀ヲナシテ介在シ、其大サ微小ナルモノヨリ二耗ニ達スルモノアリ、角閃石ハ輝石ヨリ變質セルモノニシテ、綠泥石及綠帘石ハ輝石及細粒ノ長石ヨリ由來セシカ、如ク粒狀ヲナシ、集簇セリ、方解石ハ長石間ヲ充填シ、沸石ハ晶洞ヲナシテ其中ニ細粒狀ノ結晶ヲナシ、又ハ放射狀ヲナス、磁鐵礦ハ粒狀或ハ八面體ノ粒子トシテ含マル

高岡郡橋原村、六丁ニ露白セル本岩ハ秩父系中ニ幅三米内外ノ岩脈ヲナス、同村、越知、面ノ北ニ秩父系ヲ貫通セル岩脈ハ共ニ前記ノモノト稍其岩質ヲ異ニシテ、著シク酸性ナリ、即チ石英ヲ伴ヒ、中性斜長石ノ外ニ正長石、有色鑛物トシテ、角閃石ヲ含メリ、斜長石及正長石ハ半自形柱

狀又ハ粒狀ヲ呈シ大サニ耗乃至四耗ニシテ「カールスバド」或ハ「アルバイト」雙晶ヲナシ著シク
陶土化セリ、角閃石ハ多ク分解シテ綠泥石及綠簾石ニ變セリ、即チ本岩ハ閃綠玢岩ニ近キモノ
ナリトス

十六、石英粗面岩

本岩ハ高知縣幡多郡十川村戸川谷ニ於テ並ニ同村ヨリ追和谷、昭和村大畑ニ亙リテ岩脈ヲ
ナシテ四萬十統中ニ貫入シ愛媛縣北宇和郡日吉村葛川奥、同郡三間村土居中、泉ヶ森ノ北麓及
高光村大畑ニ於テハ上部白堊系ヲ貫キ岩脈ヲ成ス

岩石 灰白色ヲ呈シ風化セル面ハ酸化鐵ノ浸染セルニヨリテ虎斑狀ヲ呈セリ、石理細密ニ
シテ時ニ斑狀ナリ

斑晶—正長石、石英

正長石ハ卓狀ヲナシ陶土化セルモノ多ク、陶土ト絹雲母トニ變セリ、石英ハ兩錐形ノ結晶ニ
シテ其大サ一耗内外ナリ、石基ハ石英及長石ノ微晶ヨリ成リ、硅長質構造ヲ呈シ絹雲母ノ細鱗
片及磁鐵礦ヲ混フ

第二章 應用地質

一、銅 鑛

本圖幅地ノ秩父系中ニハ含銅硫化鐵鑛床ヲ埋藏セル所アリ、其主ナルモノ次ノ如シ
東向鑛山 高知縣高岡郡幡原村東向ノ奥ニ在リ、池邊春光ノ探掘鑛區ニ屬シ年々小規模ニ
銅鑛ヲ探掘シ左表ノ如ク銅精鑛ヲ産セルモ巡回當時ハ休山セリ

昭和四年

一三〇厘

五年

一一〇

六年

八六

七年

一〇五

八年

二二八五

鑛床ハ秩父系ノ粘板岩中ニ層狀ニ胚胎セラル、鑛脈ニシテ粘板岩ハ綠泥化作用ヲ受ケ綠
色ヲ呈セリ、坑外ニ殘存セル鑛石ニヨリテ察スルニ鑛石ハ綠色粘板岩中ニ黃銅鑛及黃鐵鑛ノ

鑛染セルモノニシテ鐵脈ハ幅約六極ノモノアリタリ

惠美須鑛山 愛媛縣東宇和郡遊子川村野井川ニアリテ試掘中ナリ此地ノ地質ハ秩父系ノ角岩及粘板岩ニシテ東西ニ走リ北方ニ七十度傾斜セリ鑛床ハ灰色粘板岩中ニ幅三極内外、上下約〇五米内外ノ鑛體ヲナス鑛石ハ細密ナル黃鐵鑛及黃銅鑛ノ凝集セルモノニシテ塊狀ヲナス、試掘坑ハ掘進僅ニ數米ニシテ前記ノ鐵脈ノ他ニ見ルヘキモノナシ

龍徳鑛山 愛媛縣東宇和郡惣川村龍徳ノ奥ニアリ試掘中ニ屬シ秩父系粘板岩中ニ僅量ノ鑛石ヲ見タルノミ

一、格魯謨鐵鑛

圖幅地内ノ蛇紋岩中ニ格魯謨鐵鑛ヲ藏セルコトアリテ探掘セラレタルコトアリ其主ナル地方ハ高知縣高岡郡橋原村高階野、永野、井桑、神野山、愛媛縣東宇和郡魚成村、男河内、喜多郡菅田村、小倉等ニシテ之等各地共現在全ク探掘セラレス探掘跡ヲ巡檢セルニ各鑛床ハ鑛巢或ハ網狀ヲ成シテ蛇紋岩中ニ胚胎セラレタルモノ、如ク之ヲ目的ニ處々ニ不規則ニ開坑探掘シタルナリ其鑛石ハ帶紫黑色ヲ呈シ蛇紋岩中ニ主トシテ格魯謨鐵鑛ノ鑛染セルモノナリ

三、水銀鑛

藤ノ川水銀鑛山 愛媛縣北宇和郡日吉村藤ノ川ニアリ其開坑セラレタルハ明治ノ初年ニシテ一時アンチモニ一鑛山トシテアンチモニ一鑛ヲ探掘セシコトアリ後富母里鑛山ト稱シ時々水銀鑛ヲ探掘シタリ巡回當時ハ休山中ニシテ坑内ニ入坑シ得サリキ鑛床ハ四萬十統ノ頁岩層中ニ通スル含水銀鑛石英脈ナルモノ、如ク坑外ニ堆積セル鑛石ヨリ推察スルニ辰砂ノ細粒ノ石英中ニ網狀ニ含マレ或ハ鑛染セルモノナリ坑外ニ堆積セル鑛石ノ良質部ヲ本所分析係ニ於テ試ニ分析セルニ其結果含水量銀量ハ百分中二九・八四アリタリ

四、滿 俺 鑛

本圖幅地内ノ秩父系ノ角岩ニハ處々滿俺鑛ヲ含有シ其富鑛部ハ大正七八年ノ交ニ盛ンニ探掘セラレタリ其主ナル地方ハ東宇和郡下宇和村、宇和町、野村町、土居村、北宇和郡三島村ナリトス

是等各地ノ探掘跡ヲ見ルニ開掘セル部分ハ多クハ殆ント皆地表面近キ處ノミニシテ僅ニ地

下十數米ニ達スルモノ、ミナリ之ヲ以テ見ルニ是等ハ概ネ酸化帶内ノ黑色ニ酸化滿俺鐵ノ富鐵部ノミヲ採掘セルモノナラン

五、甑 土

更新統及現世統ノ粘土ハ處々ニ於テ磚瓦用粘土トシテ利用セラル。愛媛縣日吉村鑓山地方ノ更新統ノ粘土ハ礫層中ニ挾マレ約二米ノ厚サヲ有シ褐色及帶青灰色ノ部分アリテ之ヲ採リテ瓦燒キノ原料トシテ利用セラル。又現世統ノ粘土ハ三間川沿岸野村町附近卯之町、田ノ筋附近ニ於テ盛ンニ瓦燒用粘土トシテ利用セラル、モ地方ノ需要ニ供スルノミナリ

六、石 灰 岩

秩父系及島ノ巢統ノ石灰岩ハ生石灰燒製原料トシテ利用セラル、アリ採石中ノ主ナルモノハ北宇和郡玉津村、東宇和郡魚成村、溪筋村、土居村、野村町、喜多郡藏川村、上浮穴郡浮穴村、高知縣高岡郡橋原村、大藏谷等ナリ。生石灰ハ主トシテ稻田ニ撒布施肥セラル、モノナルヲ以テ採石ノ時期モ自ラ農村ノ閑暇ノ時即チ晚冬初春ノ候ニシテ之ヲ焦製シテ石灰トナス、其産額ハ

一ケ年ノ使用量ヲ見込ミテ採石スルヲ普通トス

七、石 材

秩父系安藝川統四萬十統、上部白堊系等各地層ノ石灰岩及砂岩ハ石垣石或ハ基石トシテ諸地方ニ於テ利用セラル、モ四萬十統及上部白堊系ノ砂岩ハ加工容易ナルヲ以テ特ニ良ク利用セラレ、北宇和郡三間村、成妙村、愛治村、二名村、好藤村等ニ於テ採石セラレ地方ノ需要ヲ充セリ

八、鑛 泉

圖幅地内ノ愛媛縣東宇和郡宇和川村、小藪、同郡高川村、池野々及同郡中筋村、高瀬ニ於テアルカリ性鑛泉湧出シ各地ニ於テ之ヲ浴湯ニ利用セリ

昭和十年三月二十七日印刷
昭和十年三月三十一日發行

定價金六拾錢
郵稅金四錢

著作權所有 商 工 省

東京市深川區白河町四丁目一番地一

印刷者 松 井 方 利

東京市深川區白河町四丁目一番地一

印刷所 東京印刷株式會社



東京市麴町區下二番町四十八番地

發行所 東京地學協會

EXPLANATORY TEXT
OF THE
GEOLOGICAL MAP OF JAPAN

Scale 1:75,000



UNOMACHI
Zone 33 Col. XIX
Sheet 249

By

TATSUO SUZUKI

(Written in 1934)

(Abstract)

GEOLOGY

Mikabu Series (Pre-Carboniferous) consists of epidote-chlorite-schist and graphite-schist, and is found in a small area at the northwestern corner of the sheet map area, extending to the Kuma sheet on the north. The strata strike N 60° E and dip to northwest at angles ranging from 40° to 60° and show monoclinical structure.

Kume Series (Pre-Carboniferous) is composed mainly of green or gray phyllite intercalating quartzite, sandstone, limestone and schalstein. It is developed mainly near the northern corner of the sheet map area lying on the southern side of the Mikabu Series from which it is separated by a fault running from northeast to southwest.

The extension of the series is divided into three zones by two fault-lines running nearly parallel to each other from northeast to southwest. In the northern zone, it is composed mainly of green phyllite rich in chloritoid substances, and intercalates thin layers of quartzite. The strata strike N 60° E and dip to north at angles varying from 40° to 60°. In the middle zone it is built up dominantly of gray phyllite with some sandstone and quartzite, striking N 40° to 60° E, and dipping about 60° toward north. The strata are folded near the fault line. In the southern zone where it consists of gray phyllite with intercalated crystalline limestone, red and green schalstein and gray or white quartzite, the strata strike from east to west dipping toward north at angles varying from 40° to 60°, showing a monoclinical structure. No fossil being found in the Kume Series, its age is not determined. But, from its lithological characters, it seems to be older than the Upper Palaeozoic Chichibu System. The areal boundary between these two formations is marked by a fault running from northeast to southwest.

Chichibu System (Permo-Carboniferous) consists mainly of gray to black or green slate and fine-grained gray or dark gray sandstone. White to gray or reddish tinged hornstone with occasional radiolarian remains, green schalstein rich in chloritic matter or epidote, red or purple schalstein containing haematite, white or gray fine crystalline limestone are intercalated in the System. The limestone is locally fossiliferous. Permo-Carboniferous

Fusulinid foraminifera such as *Fusulina*, *Schwagerina*, *Neoschwagerina*, *Verbeckina*, *Neofusulinella* and some corals such as *Lonsdaleia*, etc. were detected from the limestone. This system occupies the northern half of the sheet map area, and is cut by many faults. Three remarkable strike-faults, Ochimen, Takano and Hokezu, running nearly from east to west seem to be reverse or thrust faults. The general strike of the strata is from east to west and dip-angles vary from 30° to 80° to north. The thickness of the whole system can not easily be measured, on account of frequent occurrences of several faults. The southern boundary is well defined by faults which separate it from the Jurassic Akigawa Series and the Jura-Cretaceous Torinosu-Ryoseki Series.

Kokuzōsan Series may be, as already mentioned in the explanatory text of the Susaki sheet, divided into two beds; the upper and the lower. A foraminiferal fossil *Schwagerina* has been found in the limestone in the lower bed at Miyanoura in Takagawa-mura, Tosa. On this account, the lower bed is here included in the Chichibu System, only the upper bed being mapped as the Kokuzōsan Series. The series lies on the Chichibu System as its upward continuous strata and consists of sandstone, hornstone and slate. It strikes nearly from east to west and dips to north at about 70°. The thickness of this monoclinical strata is measured to be 700 m.

Triassic Series consists of gray sandstone, dark gray shale, chert and limestone, and is found in a narrow belt,

elongated from east to west, at Taho, being bounded on the north and south by two subparallel faults between the Chichibu System and the Torinosu Series. The general strike is about from east to west and the dip to north at about 60°, forming monoclinical strata. The thickness of the series is estimated at about 300 m. This series was referred as the *Meekoceras* Bed by Dr. Yehara, a number of *Ammonites* and *Pseudomonotis* belonging to the Lower Triassic Skytic epoch being described from it. Later Dr. S. Shimizu described also the above fossils and some additional species (as listed on p. 12 of the Japanese text), most of which are of the Columbitan Stage of Skytic, only one *Ammonites Proarcestes* aff. *haniela* Welter being of the Carnic.

Akigawa Series is a continuation of the same found in the neighbouring sheet of Susaki on the east. Two beds, the upper and the lower, are recognized.

The **Lower Beds** consist chiefly of sandstone and shale, intercalating radiolarian shale and conglomerate. The sandstone is light gray or gray in colour and fine to coarse grained. The shale is generally hard, compact and massive, but some part of it show clearly stratification and exfoliate on exposure. The radiolarian shale is red or purple in colour, showing stratification and easily disintegrates into slabs on exposure. It is composed chiefly of clayey matter mixed with brown dust of iron oxide and radiolarian remains. The conglomerate is made up of pebbles of slate, hornstone, quartzite and others of pea or

nut size cemented by fine sand and clay. The Lower beds are found well developed in the southern part of the sheet, occupying a wide zonal area extending from east to west. In the east, the strata have a curved strike, changing from N 40° W to E-W and next to N 60° E, as observed from west to east, and dip to north at angles between 50° and 80°. In the west, however, the strata generally strike almost E-W and dip to north at angles ranging from 50° to 80°.

The **Upper Beds** occur in a small area around Takanoko and are composed of sandstone and shale with one layer of red shale. The sandstone and shale are seen in places in fine alternation. Between the Upper and Lower beds is found a fault trending from east to west. The strike of the Upper beds is about N 70° E or E-W and the dip is 60° to 80° toward north.

Shimanto Series is composed commonly of gray shale and medium grained sandstone associated with conglomerate, radiolarian shale, hornstone and limestone. The series may be divided into three beds, namely: the lower, sandstone and shale with radiolarian shale and hornstone; the middle, sandstone and shale; the upper, sandstone and shale with fossiliferous limestone. The total thickness of the whole series is about 5,000 metres. The strata strike, at Fujinokawa, N 50° E, dipping to NW at 40° to 60°; at Mt. Kiritate, from East to West, dipping to N at about 70°; and along the middle course of the river Yusuwara, the series run N 60° W, dipping to NW at 60° to 80°. The limestone at Miyanaro embeds some coral-

line fossils quite similar to those of the Torinosu Series, so that the upper, sandstone and shale beds may be identical with the Torinosu Series or the Upper Jurassic, and the middle and lower beds may belong to the older Jurassic.

Torinosu-Ryoseki Series (Upper Jurassic-Lower Cretaceous) is built up of shale, sandstone, conglomerate and limestone. The conglomerate found in the lower part of the series contains pebbles of green and red cherts and that in the upper part, cobbles of sandstone, shale, gray chert and porphyrite. The former is sometimes fossiliferous, *Trigonia kikuchiana* Yok. and *T. pocilliformis* Yok. having been found at Takagawamura. The limestone, gray to dark gray in colour, occurs in the shale at two or three horizons, and is prolific in fossils such as reef-building corals, *Stromatopora*, *Chaetopsis*, calcareous algae, *Cidaris* and some brachiopoda. The series is found as if squeezed, between the two masses of the Palaeozoic Chichibu strata or between the Palaeozoic and the Jurassic Akigawa series, thus forming roughly three belts arranged along the three prominent faults, Ochimen, Takano and Hokezu, mentioned before. The general strike is from east to west and the dip angles vary from 40° to 80° to north, rarely to south. The thickness is measured at about 500 metres. The fossils of *Trigonia* from the conglomerate at Takagawamura are of the Lower Cretaceous, but other fossils from the Torinosu limestone layers indicate that the greater part of the series belong to the Upper Jurassic.

Upper Cretaceous consists of the sandstone and shale

zone intercalated with conglomerate in the lower part and the shale zone in the upper. The lower zone is found lying around Mts. Makinoyama and Izumigamori in the western part of the area occupied by the series, striking from east to west and dipping northward at about 50°. These monoclinical strata attain about 1,500 metres in thickness. The upper zone lies to the east of the former, and is built up chiefly of shale and sandy shale with intercalated minor layers of medium-grained, gray or greenish sandstone and conglomerate. The sandy shale is gray and fossiliferous. *Inoceramus* cfr. *regularis* d'Orb., *I. uwajimensis* Yehara and a few echinoids are found at many places. The strata around Narifuji are broken into many blocks by transverse and longitudinal faults. The series changes its strike from N 20° W to N 40° E, forming two synclines and one anticline. The total thickness of the Upper Cretaceous is estimated at about 500 metres.

Pleistocene covers river-terraces near Nomura-machi and Uwonashi, and is composed of clay, sand and gravel, forming horizontal layers and attaining 20 metres in maximum thickness.

Recent consisting of sand, gravel and clay, forms alluvial plains along rivers and sea coast.

Granite-Porphry occurs as dikes intruded into the Upper Cretaceous shale and sandstone zone near Izumigamori. These dikes may be apophyses branched off from the Biotite-granite mass exposed on Mt. Takatsuki in the neighbouring Uwajima sheet. The rock is gray in colour

and granular in texture, but it partly shows rather porphyritic texture. The chief components are quartz, orthoclase, biotite and muscovite, accompanying magnetite, zircon, apatite, epidote and kaoline. Porphyritically contained in the rock are some orthoclase crystals, having prismatic habit and in albite or carlsbad twinning.

Quartz-Porphry occurs as dikes intruded into the Upper Cretaceous Series at the northern flank of Mt. Izumigamori. It is porphyritic in texture, and is composed chiefly of quartz and orthoclase, containing zircon, magnetite, apatite, biotite as accessory minerals.

Gabbro is found intruding into the pre-Carboniferous Kume Series, the Upper Palaeozoic Chichibu System as well as the Torinosu Series as huge sheets or large masses at Ogura and Murashima in the north, and also at Ongawauchi and Kamagawa in the central part of the sheet. Small dikes of this rock are also found at Onji and Matsudani. Commonly it is granular in texture and green in colour, but sometimes gray or dark green. Titan-augite and labradorite are chief components of the rock and chlorite, epidote, magnetite, ilmenite and calcite are accessory minerals. It is partially altered into a green serpentinized rock, rich in chlorite, epidote and serpentine. In places, especially in the periphery of the masses, it is associated with serpentine as seen at Ogura and Ongawauchi.

Serpentine occurs intruding into the Upper Palaeozoic Chichibu System as sheets or dikes, often associated

with schalstein. The rock is green or dark green in colour and is composed chiefly of fibrous serpentine and chloritoid substance mixed with magnetite, chromite and ilmenite grains.

Diabase is found intruding into the Chichibu system in the form of dikes or sheets. Some are fine in texture, while others are mostly medium to coarse crystalline. The rock is green in colour, and is composed chiefly of labradorite and augite, showing diabasic structure and being associated with epidote, zeolite, magnetite, chromite and calcite. The dikes exposed at Ōtado near Ochimen and Rokucho in Yusuwaramura contain abundant hornblende and andesine, besides orthoclase and quartz which are seen in interstitial spaces of andesine, so that it may be an acidic type of the diabase to be correctly called as Diorite-Porphryite.

Liparite occurs intruding into the Shimanto Series at Ōhata and into the Upper Cretaceous at Izumigamori in the form of dikes. It is gray in colour, being often altered brown by weathering. It contains quartz and orthoclase as phenocrysts in a felsitic groundmass.

ECONOMIC GEOLOGY

Copper Ore is found as cupriferous pyrite deposits. In the Upper Palaeozoic rocks at Kochimuki in the Kōchi Prefecture, and Ebisu and Ryutoku in the Ehime Prefecture. These deposits are of the bedded vein type of small scale, the ore consisting of minute grains of pyrite

disseminated into the slate or other country rocks. They are, however, under prospecting only and are not productive at present.

Chrome Ore was once mined at Isō and Nagano in the Kōchi Prefecture, Ogura and Ongawauchi in the Ehime Prefecture and other places, but none of them is worked now. The deposits are pockets formed by concentration of chrome iron ore in the serpentine.

Mercury Ore was worked until some months ago at Fujinokawa, Hiyoshi in the Ehime Prefecture. The deposit is a quartz vein impregnated with cinnabar, traversing the Shimanto Series.

Manganese Ore which is the quartzite of the Chichibu System locally impregnated with manganese ore, was prospected or mined many years ago at Shimo-Uwa, Uwamachi and Nomura in the Higashi-Uwa District, and Uonashi and Doi in the Kita-Uwa District.

Potter's Clay obtained from the Recent and Pleistocene sediments is utilized for manufacturing roofing tiles to meet local demands.

Lime is produced at several places by burning limestones of the Chichibu system and Torinosu Series as for the fertilizer for rice-fields.

Building Stones are got from sandstones and limestones in the Palaeozoic and Mesozoic Systems, especially sandstone of the Upper Cretaceous which is very easy to be carved for any desired form.

Mineral Springs which are alkaline in nature gush out at Takase, Ōyabu, Ikenono in Higashi-Uwa, Ehime Prefecture. They are used for baths on heating.